

技術者教育・技術者制度改革とは何だったのか？ ～経緯と初心を確認し、現状を考える～

主催：公益社団法人 日本技術士会中部本部倫理委員会-教育促進小委員会

○日時：2019年3月10日(日)13:00-16:45 ○場所：名古屋工業大学2号館C棟1階0211(F1)教室

1995年大阪でのAPEC首脳会議から具体的に動き出した「APECエンジニア」対応の国内制度整備は、工学系学協会の倫理綱領整備、技術者教育認定（JABEE認定）制度の開始（1995年）、技術士法改正（2000年）、CPD制度の整備、技術者倫理教育の普及等を経て、制度の形式を整え現在に至っています。この制度整備は「日本の技術者教育と技術者制度全体の変革」と呼ぶべきもので、日本の工学教育と技術士制度は、一定の「国際的同等性」を確保しました。しかし、工学高等教育は求められる教育の整備途上、技術士の社会での活用も進まず、この変革は今や停滞や後退の局面に入りつつあるようにすら見えます。また、当事者の中でも、この変革が目指していたことも忘れられつつあります。

この制度改革を中心的に推進され、停滞する現実にも真っ先に向き合ってきたのが大橋秀雄先生です。今回はこの変革の初心と現実について大橋先生から直接お伺いします。また、博士論文でこの変革を研究した当小委員会委員長が、この変革の全体像を再確認するとともに、大橋先生との対話と会場全体での議論を進め、変革の全体像を共有するとともに問題を掘り下げていきます。

開場(12:40) 開会挨拶(13:00)

講演1. 「2000年頃の技術者教育・技術者制度変革の経緯と概要」 (13:05-13:55)

この変革は「APECエンジニア対応の制度整備」と、グローバル化など国外のみの理由で取組まれたものと考えられがちだ。講演者は博士論文『日本の技術者制度変革の停滞と混乱～その問題分析と解決策の提示～』（2015年,名古屋大学）で、この変革への国内的な問題意識があったこと、急がれる制度整備の中で、その問題意識が正確に反映されなかった可能性を指摘している。この変革の経緯と概要とともに、その問題意識が今もなお課題として取り上げ続けられていることなどを指摘し、現状の問題の根本がどこにあるかについても言及する。

日本技術士会中部本部教育促進小委員会委員長

講演2. 「技術者教育・技術者制度変革を振り返って」 (14:00-15:00)



大橋先生のWebページより：「日本学術会議，日本工学アカデミー，日本機械学会，日本工学会，日本工学教育協会，日本技術者教育認定機構（JABEE）などにおける活動を通じて，わが国の技術者(engineer)が国際的に通用するプロとして認知される基盤作りに取り組んできた．大学における技術者教育，卒業後の実務経験，技術士などの資格取得，継続能力開発CPDに至るまで，技術者の生涯にわたるキャリア開発を支援して，プロとしての地位と魅力を高めることが目標．」

この変革の中心にいた者として、その初心、壁、今の思いを語る。

元日本工学会会長，元日本技術者教育認定機構（JABEE）会長，他 大橋 秀雄 氏
東京大学名誉教授，工学院大学名誉教授，Dr.-Ingenieur，工学博士

パネルディスカッション パネリスト：大橋 秀雄，パネリスト・司会：当小委員長(15:15-16:45終了)

(終了後、交流会を予定しています(3千円程度で検討中)。参加には、お申込みが必要です。)

○シンポジウム参加費：技術士会会員及び教育関係者：1,000円，一般：2,000円，学生：無料・・・会場でお支払い下さい

○お申込み方法：以下の何れかの方法でお申し込みください。

①日本技術士会統括本部Webページ-CPD行事予定ページ※1から、申込ボタンを押し、画面に従い必要事項をご記入の上お申込み下さい。(「主催者への連絡事項」欄に交流会への参加不参加を忘れず明記ください。)

※1 <https://www.engineer.or.jp/sub05/> の右側の該当するCPD行事予定表(↓参照)をクリック
(技術士会会員→「◎会員向けCPD行事予定表」/非会員・一般→「◎一般向けCPD行事予定」)

②下記「お問合せ・ご連絡先」宛メールに、ご所属・ご役職、専門分野(担当科目)、ご氏名、交流会参加不参加を明記。

(注：お申込みは①②にかかわらず先着順。資料準備のため4日前までの申し込みをお願いします。)

○お問合せ・ご連絡先 教育促進小委員会 担当者 asadaddy@yahoo.co.jp

